



世界の子どもたちを取りまく問題



ひんこん ふんそう

貧困や紛争。世界の問題が複雑にからみ合って、子どもたちの健やかな成長をさまたげて

ふくざつ

います。ともに「今」を生きる世界の子どもたちの声に耳をかたむけてみましょう。



①ネパールに住む
ソニちゃん (11才)

7人家族でくらしていたソニちゃんは、突然お父さんが病気で亡くなり生活がとてもきびしくなっていました。学校に通えなくなってしまったソニちゃんはワールド・ビジョンの支援を受けて、もう一度学校へ行くことができるようになりました。「大きくなったらお医者さんになりたい！」



②エチオピアに住む
ゲタチェくん (10才)

「昔は学校に行っていたけど、ぶんぼうぐや制服が買えなくなってしまって、学校をやめたんだ。家族を助けるために毎朝2時から危険な薬草を集めるとても大変な仕事をしていたんだ。それに野生動物がいて、こわかった。今はワールド・ビジョンの支援（しえん）を受けて、学校に戻れてとってもうれしい！」

ワールド・ビジョンは、約100カ国で
活動する世界最大級の国際NGOです。

宗教、人種、民族、性別にかかわらず、
すべての子どもたちが健やかに成長できる
世界を目指して活動しています。

「水を運ぶのは重くて、とても大変！」アイリーンちゃんは家に水道がないため毎日6キロ歩いて川へ水をくみにいきます。そのため遊んだり、勉強する時間がなくなっています。



③マラウイに住む
アイリーンちゃん (9才)

イスラム系少数民族のロヒンギャであるイーダスくんは、母国ミャンマーでは市民権を持たず差別を受け、バングラデシュへ命がけて避難（ひなん）してきました。難民キャンプで火を燃やすためのまきを集めるのが彼の仕事です。子どもたちは暴力（ぼうりょく）や栄養失調の危険の中で生活しています。



④ミャンマーからバングラデシュに逃（のが）れた
イーダスくん



⑤シリアからヨルダンに逃（のが）れた
フィラスくん (11才)

「大きくなったら建築家（けんちくか）になりたい。すべてのシリア人が安全で、自分の家と呼べる住まいを持てるようになることを願っているんだ。」シリアで生まれ育ったフィラスくんは5才の時に戦闘が始まり、家族でヨルダンへ逃げ、難民（なんみん）キャンプで暮らし始めました。そこでは電気も学校もありませんでした。



⑥ウガンダに住む
イブリンちゃん (7才)

「おなかがすいた。何か食べたい」イブリンちゃんは、かすかな声で言いました。もう24時間近く何も食べていません。この家族は、だれも笑っていません。話すことさえしません。お父さんは新型コロナウイルスの影響で仕事がなくなりました。お母さんは近所の人に食べ物を分けてもらいに行きます。



⑦ホンジュラスに住む
エデュアルドくん

「友だちに会いたい。新型コロナウイルスのきょうふが早く終わったらいいな」学校がお休みになり、友だちの中にはインターネット環境が整わず、勉強が遅れてしまっている子もいます。また、給食を食べられないために栄養不足になっている子どもたちもいます。



⑧インドに住む11才のクルちゃん。「昔は人前で話す自信が無かったし、こわかったわ。でも、今はワールド・ビジョンの子どもクラブに参加したおかげで自信を持って話すことができるの。クラブでわたしたちが持っている権利（けんり）について学んだよ。クラブに参加（さんか）するまでは、権利について知らなかった。すべての子どもたちに4つの基本的（きほんてき）な権利

あるんだよ。生きる権利、育つ権利、教育を受ける権利、参加する権利。クラブでは子どもたちを守る活動もしているんだよ。誰かが学校に行っていなかったり、道でパンや卵、果物やお茶を売ったりしているのを見つけたらクラブの先生に伝えるの。先生はそれが正しくないことを家の人に説明してくれる。わたしたちが持っている権利について学ぶことは、とっても大切なんだよ」

「子どもの権利条約」 けんりじょうやく

生きる権利



すべての子どもの命が守られること

育つ権利



その子どもが持っている能力をのばし、成長できるように医療（いりょう）や教育を受けられるようにすること

守られる権利



暴力（ぼうりょく）や危険（きけん）な仕事などから守られること

参加する権利



自分の意見を自由に表現したり、情報（じょうほう）を手に入れたり、自由に集まったりできること

やってみよう！

- みなさんの毎日は「子どもの権利」が守られていますか？
- 前のページの世界の子どもたちは、「子どもの権利」が守られていましたか？
- 「子どもの権利条約」について、くわしく調べるにはこちら

